特定非営利活動法人

アーユス仏教国際協力ネットワーク
2023 年度会員総会

◇◇◇

【中期計画の 5 本柱】(2022-2024)

１．社会課題解決のためのより良い知恵、資源を巡らせる専門性を持った国際協力 NGO をめざす。

アーユスがハブとなり、仏教関係者／寺院・NGO・専門委員・市民の間に、情報／知恵／資金・物資を必要なところへ巡らせます。アーユスは、つなぐ人たちを応援し、孤立させず、また安心して活動できるよう支えていきます。市民による活動を底辺から支えてその活性化に取り組んでいきます。

２．不当な支配や抑圧、格差、差別、紛争、人権侵害などから困難を抱える人たちの中でも、特に光があたっていない人たちや課題に光を当てている活動や、活動している人たちを応援する。

紛争や災害などが起きた当初は世界の耳目が集まっても、報道が少なくなるにつれて社会の関心が薄れる事例は後を絶ちません。しかも、現場の困難な状況は改善されず、事態は悪化してさらなる支援が必要な場合も多くあります。

アーユスは光があたらないところに光をあて、光が当たらない要因や社会構造もあきらかにして、取り残される人たちがいない社会をめざします。

３．アーユスに関わる人たちをつなぎ、共に思考が揺さぶられる多様な視点を持てるよう、情報発信や交流を増やす。

アーユスに関わる寺院関係者・専門委員・NGO をつなぎ、社会課題を多角的な視点をもって考えられるような発信やイベントを広く一般に向けて行います。また、それぞれが互いの取り組みへの関心を高める機会をつくり、協力関係がいっそう活性化することをめざします。

４．より多くの「光が当たらないところ」に光を当てるために、寄付先や連携先としての信頼度を高め、アーユスの活動資金の安定化を図る。

設立以来 30 年近くを経て、社会や支援者の状況も変わりました。より多くの課題や人びとに光があたり、寛容な社会づくりに貢献できるよう、アーユスの財政基盤の強化は急務となっています。仏教の精神に根ざした活動に共感する人たちの輪を広げ、資金や物資の面のみならず、情報発信に協力してくださる方や活動への参加者を増やします。

５．次世代の仏教者や市民がアーユスの担い手となる仕組みをつくる。

組織運営を担う人材の世代交代ができるよう、より多様な世代が参加できる仕組みを作ります。また、既存の役員・会員・支援者が参加しやすい、より開かれた組織をめざします。

2022 年度アーユス事業報告

2022 年度は、時局対応支援が大きく動いた一年だった。2022 年 2 月に始まったロシアによるウクライナ侵攻の収束が見えない中、年間を通じてウクライナ緊急救援募金を受け付けながら、チェルノブイリ原発の被災者支援の経験から現場に通じている 2 団体による活動に協力。また 2023 年 2 月に起きたトルコ・シリア大地震に対しても、パートナー団体 2 団体がそれまでの経験を生かした支援を開始したことを受けて、アーユスも募金を開始し、取り残されがちな人たちや地域への活動を支援することができた。またアーユスの予算内では、南スーダンでの内紛による国内避難民への緊急救援、インドに逃れたミャンマー難民への支援活動に協力した。

ミャンマーに関しては、上記の緊急支援に加えて、＃国軍へｎ資金源を断てキャンペーンに参加し、提言活動や情報発信に年間を通じておこなった。

このように緊急支援に関して現場を持たないアーユスにも寄付が集まるのは、現場のニーズに真摯に応えようとする団体を応援してきた姿勢について、支援者からも一定の期待と信頼を得てこられたからだろう。

緊急時の寄付の窓口となるのは、「社会課題解決のためのより良い知恵、資源を巡らせる専門性を持った国際協力 NGO をめざす」アーユスの重要な役割の一つといえる。今後はパートナー団体の知見がない地域で災害や紛争が起きた場合の対応策も視野に入れて、迅速に対応できる体制を整えることが求められる。

また、NGO の組織運営のスタイルが変化する中、設立以来根幹事業として実施してきた「ＮＧＯ組織強化支援（人材支援）」を新たな支援制度に変更することとなり、役員と事務局で検討委員会を設置して議論を重ねた。その結果、NGO の視点から社会変革（ソーシャルチェンジ）を目指す活動を支援する新制度へと転換することが合意され、2023 年度より募集が開始できるよう準備が進められた。

「アーユス賞」は予定通り実施され、3 月には授賞式を会場とオンライン配信のハイブリッドで開催。NGO 新人賞の賞金はクラウドファンディングで呼びかけた結果、3 名にそれぞれ 20 万円を授与することができた。

その他の支援事業を含めて NGO 支援事業は、予定通りおこなうことができた。

従来の教育交流事業は研修ネットワーク事業となり、セミナーや研修会はオンライン配信を基本に状況をみながら対面でも展開したが、アーユスらしいネットワークの構築については試行錯誤の一年となった。セミナーでは、アフガニスタンやミャンマーなど、時間の経過と共に報道がされなくなった課題にも引き続き光をあて、現地の情報を伝えながら日本にいる私たちにできることや日本の責任を問うことができた。また、同じイシューに取り組む複数の NGO によるトークや、NGO と僧侶、または外部識者と僧侶の組み合わせなど、異なる立場の人たちと共通の課題を問う企画など、多様なセクターをつなぐアーユスならではの企画も開催することができた。ただし、実施できなかった企画も多く、テーマやターゲット等の整理が必要とされる。

交流事業は東京では少しずつ再開できたが、他の地域ではできていない。一方、オンラインを活用した NGO ランチトークという、海外在住者を含めて、普段は顔をあわせない人たちと意見や悩みを語り合える場が軌道に乗ってきている。また誰でも気楽にアーユスからのメッセージや関わる事業に触れることができるよう、ツイッタースペースなどの新しい試みにも挑戦した。

組織運営の面では、プロボノ集団「ぷろぼねっと」の協力を得て、ファンドレイジング計画策定に向けての課題やデータ整理が行われた。具体的には 2023 年度からの実施になるが、外部識者の意見を交えて客観的に組織を見直すきっかけとなった。

また前述のクラウドファンディングの実施を含め、ファンドレイジング月間の設定など、寄付の呼びかけをこれまで以上に積極的に行った一年でもあった。専門委員や外部の識者にも協力を得て、アーユスの取り組みを広く知らせるきっかけを作ることができた。しかし、ファンドレイジング月間をいかすためには年間を通じた準備や働きかけが必要であり、2023 年度への課題も残された。

財政面では、緊急救援募金や物でお布施を中心に寄付が集まった。ただし、緊急救援は支援金として使途が決まることと計画できるものではないため、より恒常的に寄付が集まるための取り組みが必要と考える。前述のファンドレイジング月間の反省点も踏まえて、2023 年度も引き続きファンドレイジングに力を入れたいと思う。

1．国際協力等を行うNGO・市民団体への助成・研修・表彰等の支援、及び紛争・災害時の緊急救援（NGO支援事業）

1） NGO組織強化支援

国際協力NGOが自立した経済基盤を築き、円滑に活動できるように、運営管理や事業遂行の知識、技術、ノウハウを身につけられるように、組織強化に資する活動を支援する。

▼報告

2022年度より、「JFCネットワーク」への支援を開始し、「アクセプト・インターナショナル」への継続支援を行った。

NGOの現状により即した支援事業への転換をねらって「NGO支援事業検討会議」を計3回開催し、これまでの「NGO組織強化支援」を、社会変革につながる活動を支援する事業へと再編し、2023年度に募集を開始することが合意された。

2）『街の灯』支援

誰一人取り残さない社会をめざす「持続可能な開発目標（SDGs）」の概念を尊重し、日本の国内外で「光があたらない」活動に取り組むNGO／NPOに協力する。

▼報告

支援対象を国際協力NGOおよび日本国内で活動するNPOの事業を対象とし、選考の結果次の2事業に新たに協力することになった。

・「日韓みらい若者支援事業」アジア・コミュニティ・センター21

・「ふくしま移住女性エンパワメント・プロジェクト」福島移住女性支援ネットワーク

また、以下4事業を継続支援した。

・「水俣市内外での水俣病患者を対象にした「相談サロン」の実施」水俣病センター相思社

・「モザンビーク共和国ガーボベルカド州テロ被災者支援及び平和教育活動」モザンビークのいのちをつなぐ会

・「アフガニスタン・ピースアクション　～平和教育と地域住民による平和の取り組み支援～」平和村ユナイテッド

・「ミャンマーでの人権侵害における日本のビジネス関与の実態把握と回避」メコン・ウォッチ

これまで寄せられた『街の灯支援特別枠　コロナ禍を乗り切るために』の指定寄付を、2021年度に協力した事業のなかでも現在も厳しい状況が続いている2団体（難民支援協会・パレスチナ子どものキャンペーン）に送った。

3）時局対応支援

国際協力NGOが紛争や自然災害時に、被災地での救援・復興活動を迅速にかつ円滑に進められるよう、資金面や物資調達などにおいて支援を行う。また国際協力活動を進めるために必要と思われる提言・キャンペーン活動の実施にも協力する。

▼報告

●南スーダン、ユニティ州レール郡での大規模村落襲撃による国内避難民への緊急支援

・実施団体：日本国際ボランティアセンター

2022年4月に南スーダンでエスカレートした大規模村落襲撃により避難生活を強いられた8万人のうち、ユニティ州レール郡にて避難生活に必要なプラスティックシートを支援。

●インド、ミゾラム州におけるミャンマー避難民緊急支援活動

・実施団体：ジュマ・ネット

ミャンマー国軍による弾圧や殺害から逃れる避難民への支援活動。

●ミャンマー、クーデター後の人道危機を巡る諸活動への参加協力

・「# ミャンマー国軍への資金源を断て」への参加
（参加団体：メコン・ウォッチ、FoE Japan、日本国際ボランティアセンター、武器取引反対ネットワーク）

・ミャンマー祈りと連帯ネットワークによる集会の運営協力

●ロシアのウクライナ侵攻

・実施団体：チェルノブイリ救援・中部
ジトーミル州における避難民やチェルノブイリ原発事故被災地での医療支援に協力

・実施団体：日本チェルノブイリ救援基金
国境の町ウジホロド、ポーランド、ブルガリアでの避難民への食料など物資支援と子どものケア

●トルコ・シリア大地震

・実施団体：パルシック
シリア北部における被災者支援

・実施団体：CODE海外災害援助市民センター
トルコ南部における被災者支援とその後の支援体制作り

●福島・脱原発支援

東日本大震災から 10 年以上が経ち、被災地への関心度が低くなる中、東北（特に福島）で起きたことを自分たちの問題として受け止め、原発に依存しない持続可能な社会の実現に向けた取り組みを支援する。

・実施団体：FoE Japan

福島県猪苗代町で開催される「ぽかぽかプロジェクト」と福島第一原発事故の被害を可視化し福島の状況を様々な形で伝える「ふくしまミエルカプロジェクト」に協力。

・協力団体：二本松有機農業研究会／ APLA

営農型ソーラーシェアリングの取り組みを生かした活動に引き続き協力し、成果を振り返るセミナーを開催。

4） アーユス賞

日本の国際協力 NGO 活動で多大な功績のあった NGO 関係者に NGO 大賞（茂田賞）、今後の国際協力 NGO 界を支えていくことが期待される有望な人材に対して NGO 新人賞、仏教の縁に基づいた国際協力や地域作りを志しアーユスの活動に対する多大な貢献や協力があった寺院もしくは個人に対して特別功労賞を授与する。

▼報告

●受賞者

・アーユス NGO 大賞　筒井由紀子さん（KOREA こどもキャンペーン事務局長）

・アーユス特別功労賞　中島真成さん（浄土宗梅窓院住職）

・アーユス NGO 新人賞　佐久間晶子さん（シェア＝国際保健協力市民の会海外事業担当）、スディプ・ダハルさん（シャプラニール＝市民による海外協力の会国内活動グループファンドレイジング担当）、割田元輝さん（パレスチナ子どものキャンペーンレバノン事業担当））

●授賞式

3 月 16 日　光明寺（東京都港区）

オンライン配信とのハイブリッド形式で開催。

2．国際協力及び社会貢献などに関する広報、普及啓発、教育研修及び相互交流（研修・ネットワーク事業）

1） 研修・研究・啓発

2022 年度は、光の当たりにくい協力事業を広く知らせること、協力先 NGO とイシュー横断的な議論をおこなって課題の根本をわかりやすく伝えることを目指した。前年、一時的に注目されたものの目を向けられなくなったアフガニスタンに関するセミナーや、ミャンマー軍への投資や支援を止めるキャンペーン活動を協力団体と共同で実施して「光を当てる」ようにした。また、共通の課題に取り組む複数の NGO や、異なるセクターの識者が同席するセミナーを実施し、ひとつの課題を多角的に捉える企画をおこない、参加者の層に広がりを生むこともできた。しかし当初目指そうとしていた社会課題を掘り下げる企画に至らなかったり、計画倒れになった企画もあり、役割分担の見直しなど改善を図っている。

（1） セミナー／啓発

●主催事業

・「ウクライナ支援報告会」

実施日：4 月 21 日

登壇者：神谷さだ子さん（日本チェルノブイリ連帯基金）、河田昌東さん（チェルノブイリ救援・中部）

・総会セミナー「JFC として生きる～尊厳が守られる社会へ」

実施日：6 月 16 日

登壇者：伊藤里枝子さん（JFC ネットワーク）

・オンラインセミナー「激動の一年を超えて～アフガニスタンで平和を作り続ける」

実施日：9 月 8 日

登壇者：小野山亮さん（平和村ユナイテッド）、アジマール・クラムさん（Your Voice Organization）

・街の灯トーク 2022

「少数民族居住地域での支援活動から学ぶ」

実施日：12 月 8 日

登壇者：稲川望さん（ジュマ・ネット）、中尾恵子さん（日本ビルマ救援センター）

※「ミャンマー連続セミナーと集会」と連動企画

「なぜ今、朝鮮半島に関わるのか」

実施日：1 月 24 日

登壇者：鈴木真里さん（アジアコミュニティセンター 21）、筒井由紀子さん（KOREA こどもキャ

ンペーン）

・「SDGs の解像度を上げる――仏教的アプローチはあるのか」
実施日：12 月 7 日
登壇者：釈撤宗さん（専門委員、相愛大学学長）、中村絵乃さん（理事、開発教育協会）、竹本了悟さん（会員、TERA Energy 株式会社）

・「利他とは何か」
実施日：2 月 9 日
登壇者：中島岳志さん（東京工業大学）、中平了悟さん（理事、西正寺）

・「終わらない 3.11 福島から」
実施日：3 月 11 日
登壇者：満田夏花さん（FoE Japan）
※経王寺「東京慰霊祭」の中で実施

・「未来への挑戦 2022　アーユス新人賞受賞者に聞く」
実施日：3 月 24 日
登壇者：佐久間晶子さん（シェア）、スディプ・ダハルさん（シャプラニール）、割田元輝さん（パレスチナ子どものキャンペーン）

●共催イベント

・防災減災オンライン勉強会「本格的な出水期を前に宗教施設の備えを考える」
実施日：7 月 19 日
主催：シャンティ国際ボランティア会

・東アジア大学生ピースフォーラム
大学生勉強会：オリエンテーション　東京会場
実施日：7 月 9 日、大阪会場　実施日：7 月 23 日／オープンセミナー「父はなぜ、ルーツを隠したのか？家族の軌跡を巡る旅から見えてきたこと」
実施日：7 月 17 日、登壇者：安田菜津紀さん／勉強会　第 1 回「過去の清算」実施日：8 月 11 日、講師：石坂浩一さん、第 2 回「謝罪」実施日：1 月 7 日　講師：石坂浩一さん／フィールドワーク　広島　実施日：10 月 1 ～ 2 日　コーディネーター：水本和実さん、講師：豊永恵三郎さん・金鎮湖さん、神戸　実施日：2 月 22 ～ 23 日　コーディネーター：李明哲さん、講師：金信鏞さんほか
主催：KOREA こどもキャンペーン

・「届けよう、未来を切り拓く人たちへのエール」
実施日：8 月 25 日
共催：関西 NGO 協議会
登壇者：川島綾香さん（テラ・ルネッサンス）、栗田佳典さん（関西 NGO 協議会）、鈴木千花さん（持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム）

・福島百年未来塾「震災から 11 年　私たちの未来創造中」
会場：二本松市市民活動センター＋オンライン配信
実施日：9 月 17 日
共催：APLA、二本松有機農業研究会
登壇者：飯田哲也さん（環境エネルギー政策研究所）、遠藤美保子さん（ちいろば会）、大内督さん（二本松有機農業研究会）、佐原真紀さん（ふくしま 30 年プロジェクト）

・ミャンマー連続セミナーと集会
「日本とミャンマー　市民の繋がりから未来を考える」
実施日：12 月 8 日
登壇者：稲川望さん（ジュマ・ネット）、中尾恵子さん（日本ビルマ救援センター）
「ミャンマー:国軍支援を止める。市民からのアクション」
実施日：12 月 20 日
登壇者：木口由香さん、杉原浩司さん（武器輸出反対ネットワーク）
「平和と民主主義を求める思い。国際情勢の中でのミャンマー」
実施日：1 月 17 日
登壇者：サイサムカムさん（INEB）
「日本からミャンマーに祈りを届ける集会」
実施日：1 月 28 日
会場：光源寺（文京区）
上記全て共催：＃ミャンマー国軍への資金源を断てキャンペーン（第４回はアーユスは協力）

●協力イベント

・球磨川流域と私たちの暮らしの在り方を考えるプロジェクト
実施日：6 月 25 日、7 月 3 日、8 月 27 日、10 月 8 日

・「日韓中高生オンライン交流会」
実施日：9 月 24 日
主催：オリニオッケドンム

・「南北コリアと日本のともだち展ぷらす」
実施日：11 月 1 日～ 12 月 10 日
会場：オンライン

・「ともだち展の日」
実施日：11 月 26 日
会場：アーツ千代田 3331
主催：南北コリアと日本のともだち展実行委員会

・「南北コリアと日本のともだち展おおさか展」
実施日：3 月 11 日
会場：大阪国際交流センター
主催：南北コリアと日本のともだち展おおさか展実行委員会
・「もっと知りたい！アジアンコーヒー with パルシック・ロータスプロジェクト」
実施日：12 月 4 日
主催：鹿児島県保険医協会

（2） 研修会

・NGO 勉強会「NGO のアドボカシーとは何か」
実施日：10 月 22 日
ファシリテーター：神田浩史さん（理事、泉京・垂井）
事例報告：木口由香さん（専門委員、メコン・ウォッチ）・湯浅一郎さん（ピースデポ）

2） ネットワーク推進

アーユスに関わる方々（専門委員、NGO 関係者、会員など）の協力で闊達な議論が生まれる言論プラットフォームの構築を目指し、まずは情報発信の手段を模索すること、どのようなニーズがあるか情報収集を行なうことに取り組んだ。協力先 NGO とは定期面談や NGO ランチトークなどを通じて、寺院とは問合せ対応やインタビューなどを通じて情報交換することでネットワークの基礎を固めはじめた。しかし、集まった情報や相談対応事例の発信には至らず、NGO・寺院・市民をつなぐ「ハブの役割」を果たしたいことを周知しきれていない。また交流は、対面での活動が東京に止まり他地域での開催に踏み切れないなど、コミュニケーション不足の課題が残った。

（1）NGO・寺院・市民ネットワーク

・協力先 NGO・関係寺院の情報収集と共有システムづくり

Web、SNS、ML、広報誌 / 寺報などから、アーユスの関わる団体のニーズや動きを把握して積み上げ、まずは内部で共有して「巡らせるネットワーク」の基礎を固めた。

・相談対応

NGO 支援、物品寄付などが中心。講師派遣や会場提供の事例は少なかった。

・他団体との連携

＜会員＞移住者と連帯する全国ネットワーク、SDGs 市民社会ネットワーク、開発教育協会、関西 NGO 協議会、カンボジア市民フォーラム、国際協力 NGO センター、名古屋 NGO センター、日本 NPO センター、仏教 NGO ネットワーク
＜購読／その他＞全国青少年教化協議会
＜共同要請／賛同等＞（カッコ内は呼びかけ団体等）
●ビルマ／ミャンマー関係（「# ミャンマー国軍の資金源を断て」構成団体として活動）
・4 月 20 日 プレスリリース「ミャンマーでの事業について主要株主 13 社から回答　一部は日本企業 4 社の出資継続に懸念を表明」
・6 月 9 日 要望書「ミャンマー国軍を利する経済支援を止めるための 政策の後押しを求めます 」
・7 月 1 日 要請書「内閣官房内閣審議官のミャンマー訪問に対する抗議と要請 」
・8 月 29 日 プレスリリース「ミャンマー「Y コンプレックス」についての要請に対し主要株主 8 社から回答　株主には、人権侵害への加担の防止についてさらなる行動が求められる」
・署名呼びかけ「# ミャンマー国軍の資金源を断て 日本政府、ENEOS、三菱商事はイェタグン・ガス田開発から責任ある撤退を！」
・10 月 4 日 要請書「日本政府の対ミャンマー ODA の停止を求めます」
・10 月 11 日 プレスリリース「ミャンマーでの問題事業に投資を継続する日本の 3 銀行の株主として、ミャンマー国軍の資金源を確実に断つ措置を講じるよう 160 機関にエンゲージメントを求める要請書を送付」
・12 月 5 日 要請書「日本政府の対ミャンマー ODA の停止を求めます」
・1 月 6 日 プレスリリース「ミャンマー軍政と関連のある事業に投資を継続する 日本の 3 銀行の株主 10 機関から回答 銀行の株主にもミャンマー国軍への資金の流れを止める責任がある」
・2 月 1 日 共同声明「クーデターから 2 年 日本政府は対ミャンマー政策の再構築を」
●「開発協力大綱」改定関係
・「開発協力大綱」改定に対する NGO 要請書（NGO・外務省定期協議会 ODA 政策協議会 NGO 側コーディネーター及び連携推進委員会 NGO 側連携推進委員）
・『開発協力大綱』見直しにおける開発教育に関する要望書（開発教育協会）
＜ネットワーク参加＞
仏教 NGO ネットワーク /「宗教施設を地域資源とした防災減災プロジェクト（宗防災）」/FBO 情報交換会 /「G7 市民社会コアリション 2023」/ 開発協力大綱改定に関する市民社会ネットワーク」
＜委員などで参加＞

全日本仏教会　国際交流審議委員会（枝木）
浄土宗平和協会　専門委員（枝木）
仏教 NGO ネットワーク　理事（松本）／企画委員（枝木）
築地本願寺　築地新報編集委員（枝木）
JANIC「2022 年度外務省 NGO・スタディプログラム研修員応募に関わる相談アドバイザー」（井上）

（2）多様な人が語り合う場～言論プラットフォーム

アーユスと親和性の高い仏教系グループと少しずつ交流の輪を広げ、互いの情報共有や相互発信などの協力体制を模索している。

専門委員や外部識者の巻き込みを以前より意識的に行うようになってきている。セミナーでの講師だけでなく、今後は意見交換がすすむような双方向の交流にも挑戦したい。

発信手段のひとつとして定期的に試行したスペース（音声発信）は、発言者を増やしたいが twitter 利用者に限られることが課題。

（3）交流

東京では、１月中旬にオープンハウスを実施。支援者やパートナー NGO スタッフのほか、バザーやオリエンテーションを組み合わせたことで、事務所近隣の方との交流が活性化した。

・NGO ランチトーク（毎月 2 回、オンライン）
計 20 回、のべ 125 名が参加。毎回、異なるテーマを設定し、5-10 人程度の参加があった。若い人が魅力を感じる NGO のあり方、動画を生かした広報の仕方、サポーター制度について考える回の参加者が多かった。

・専門委員の集い（オンライン）
「一医師兼 NGO 活動者、本田徹が語る、世界・山谷・福島」
実施日：11 月 12 日
講師：本田徹さん（専門委員、シェア共同代表 = 当時）

（4）寺院・地域活動サポート

・募金活動への声掛け、寄付品受付・バザーの実施
寄付依頼とともに、「物でお布施」を呼びかけ。寺院からの定期的なバザー品提供は少な目だが、置きチラシや寺報挟み込みなどで一般の方を中心に前年よりのべ 30 件ほど増、初参加の人も増えている。

・総会など関係者の集まる場や寺市への参加
総会などはオンラインの開催が多く、寺市も機会をいただくことはできなかったが、地域仏教会や寺庭婦人会にお声かけしてチラシ配布などにご協力いただいたことが寄付にもつながった。

八王子市仏教会：
総会（5/10）、ねはん会のつどい（2/16）
経王寺：
大黒市（1/6）、アースデイ（1/15）、東京慰霊祭（3/11）

・自然災害の際の連携
国内災害への支援活動はなし。宗防災のネットワークに参加して情報収集をおこなった。

3）　開発教育事業

（1）　ニュースレター

132 号 「ミャンマーにおける仏教者の功罪 民族主義と民主主義」／榎本恵さん／小澤大吾さん／淺川和也さん。1 号の発行にとどまった。

（2）　施本

年 4 回発行。全体的には横ばい状況だが、季節によっては大口利用者が出てきたために増加傾向が見られる。

3）普及事業

（1）グッズ販売

対面の機会がなく、支援者向けの注文販売が中心となった。年 4 回の施本の案内にあわせてグッズの販促をおこなったため、小口注文は増えた。

（2）出版

実施せず。

（3）執筆・講演

次の表の通り、執筆講演を行ったほか、『築地本願寺新報』に編集委員として参加。経王寺の寺報に NGO の紹介を連載。

月	テーマ	派遣先／掲載先
3 月	【講演】ミャンマーの今、仏教の責任？　日本の責任？	女性と仏教・関東ネットワーク

3. 組織運営・広報

1） 組織運営

（1）組織運営

理事と事務局によるNGO支援事業検討委員会を設置し、検討会議を計3回開催してNGO組織強化支援の見直し議論を行なった結果、2023年度より「NGOソーシャルチェンジ支援」と名称を改め、社会変革（ソーシャルチェンジ）につながるアドボカシー等の活動に特化した支援スキームに再編することで合意した。

インターンシップは、早稲田大学キャリアセンターから2名のインターンを夏休み期間中にそれぞれ10日間受け入れたが、宗門校へのアプローチまでできなかった。

・会員総会

2021年6月16日（会場：長専院＋オンライン）

第一号議案　2021年度事業報告

第二号議案　2021年度決算報告

第三号議案　中期計画案ならびに2022年度事業計画案

第四号議案　2022年度予算案

第五号議案　役員改選

・理事会　下記の通り滞りなく開催された。

1回目　5月23日

第一号議案　2022年度からの中期方針案

第二号議案　2021年度事業報告案と決算案

第三号議案　2022年度事業計画案と予算案

その他　役員改選について

2回目　7月1日

第一号議案　理事長および副理事長の選出

第二号議案　役員と事務局の協働体制について

3回目　9月30日

第一号議案　アーユス賞受賞者の選考･決定（大賞･特別功労賞）

第二号議案　ファンドレイジング月間の企画について

4回目　11月30日

第一号議案　2022年度「アーユス賞」NGO新人賞の選考・決定

第二号議案　2022年度上半期中間報告・決算

第三号議案　ファンドレイジング月間について

5回目　1月31日

第一号議案　『街の灯』支援事業　2023年度対象事業の決定

第二号議案　『街の灯』支援事業　継続申請の審査･承認

第三号議案　「NGO支援事業検討会議」の報告

第四号議案　「開発協力大綱改定に関する市民社会ネットワーク」への参加について

第五号議案　プロボネットに関する報告と提案

組織強化に関するミニワークショップ

その他　日比谷野音集会の賛同依頼に係る経緯と判断に関する説明

6回目　3月30日

第一号議案　NGO組織強化支援事業の改定について

第二号議案　NGO組織強化支援事業の継続支援審査

第三号議案　2023年度事業計画／予算案

第四号議案　『街の灯』支援事業特別枠のフォローアップ（追加寄付）

2）広報／ファンドレイジング／支援者対応

2025年度までに、収入基盤が年間最低3,000万円になるよう、様々な取り組みをおこなった。

ファンドレイジング戦略を立てるため、プロボノ集団「ぷろぼねっと」に協力を得て、組織状況を多角的に分析してもらい提言をもらった。ここでの成果は、2023年度以降に具体的な計画として反映させる予定。

また集中して寄付を呼びかけるファンドレイジング月間を12月から1月まで開催。従来の支援者だけでなく、4回にわたるセミナーやウェブでの情報発信に力をいれた。ただし、この期間内だけでは訴求力に限界があり、目標の400万円には達せず、314万円に終わった（11月9日～2月9日の3ヶ月間）。協力事業の紹介や、お金の生かされ方などをより明快にし、寄付の生かされ方を知らせていくことも求められる。

新規協力者拡大は、アプローチ先のリストアップ、寺院訪問、既存支援者を通じたチラシ配布などに取り組んだ。アーユスへの協力方法のメニュー化と上記の通り寄付の使途を明快にしつつ、リストをもとにさらなるアプローチが求められる。メディアへのアプローチは、PRTimesの無料枠をとったことでプレスリリースの頻度は以前よりあがった。

一方で、クラウドファンディングは、ＮＧＯ新人賞の賞金と授賞式開催の諸費用を集めるために実施し、ネクストゴールの80万円をクリアして87万円集めることができた。しかし、93名の参加者のうち純粋な新規は8名のみであり、支援者の広がりにはつなぎきれていない。

オープンハウスは、事務所所在地の地域の人に活動を知ってもらういい機会となった。

決算報告

・当期正味財産増減額は、2,675,820 円 で黒字。
・ただし、指定寄付として預かっているウクライナ支援に 370 万円、トルコ・シリア支援に 120 万円が繰り越されているため、実際は約 225 万円の赤字。
・協賛金を除く寄付金は、19,191,132 円で、目標の 15,000,000 円を大幅に上回ったが、その内約 620 万円はウクライナとトルコ・シリア指定であるため、無指定は 1,300 万円程度。また 270 万円相当の切手寄付をはじめとする未使用切手／ハガキによる寄付も多い。（下記、寄付内訳、寄付手段別参照）
・アーユス新人賞の賞金と授賞式の開催費用の大半はクラウドファンディングで集めることができた。
・バザーは再開した。9/10、10/15（アートパラ）、2/4（FR 月間と連動）

・寄付者数推移

	寄付者人数
2022 年度	554 人
2021 年度	477 人
2020 年度	463 人
2019 年度	376 人

・マンスリーサポーター「結募金」参加者数

	結募金参加者数
2022 年度	39 人
2021 年度	36 人
2020 年度	28 人
2019 年度	16 人

・寄付内訳

一般寄付	6,573,334 円
『街の灯』募金	3,500,944 円
東日本大震災	231,000 円
ウクライナ緊急	4,637,723 円
トルコシリア緊急	2,618,168 円
コロナ禍を乗り切る	22,000 円
ミャンマー	15,205 円
新人賞	890,000 円
結募金	1,022,500 円

・寄付手段別

お金	16,006,448 円
切手・ハガキ・金券	3,183,224 円
古本関係	198,352 円
お宝エイド	40,250 円
その他	82,600 円

・会員状況

入会者数　9 人（賛助 1 人、個人 7 人、学生 1 人）
退会者数 8 人（法人 2 人、個人 6 人）

2023 年 3 月 31 日現在
特別賛助会員（24 人）
法人会員（53 人）
賛助会員（2 人）
個人会員（180 人）
学生 （1 人）
合計　260 人

▼職員

事務局長　枝木美香
NGO 支援事業課長　井上団
研修・ネットワーク事業主任　寺西澄子

2023 年度に向けて

2023 年 3 月で、アーユスは創立 30 年を迎えました。この間、多くの方々に支えられながら、多くの国際協力事業に協力することができました。2023 年度は、これまでの業績と軌跡を振り返り、感謝の気持ちを伝えると共に、仏教者・ＮＧＯ・市民をつなぎ、社会課題解決のためのより良い知恵や資源を巡らせる輪を広げていきたいと思います。

また社会課題が多様化する中、緊急時の対応（時局対応支援）・光が当たらないけれど注視・協力が必要とされる課題への支援（『街の灯』支援）、これらの課題が起きないよう社会構造を変える活動支援（ソーシャル・チェンジ支援）と、社会課題の解決に多角的に協力できる体制を整えます。

また安定して活動を続けられるよう、財政基盤の強化には引き続き取り組み、仏教の精神に根ざした活動に共感する人たちの輪を広げていきます。

１．社会課題解決のためのより良い知恵、資源を巡らせる専門性を持った国際協力 NGO をめざす。

仏教者・NGO・市民をつなぐハブとしての実績を発信し、アーユスが相談先として認知されるよう努めます。なかでも、国内外で自然災害や紛争が起きた時の支援を受け入れる窓口として迅速に動けるよう、ＮＧＯなど市民グループの情報収集と支援体制の構築に力を入れます。

２．不当な支配や抑圧、格差、差別、紛争、人権侵害などから困難を抱える人たちの中でも、特に光があたっていない人たちや課題に光を当てている活動や、活動している人たちを応援する。

NGO 組織強化支援を NGO ソーシャルチェンジ支援に改編し募集を開始します。緊急救援・街の灯支援・社会変革の支援を三本柱とし、紛争や格差が広がる時代の中でも特に光が当たっていない人たちや課題に注目して社会課題の解決の一助となれるよう努めます。また､セミナーなどでの情報発信を通じて､資金でない形でも協力し、少しでも多くの人たちに光があたるよう取り組みます。

３．アーユスに関わる人たちをつなぎ、共に思考が揺さぶられる多様な視点を持てるよう、情報発信や交流を増やす。

オンラインや対面でのセミナーやイベント、ウェブなどの媒体を活用した情報発信、交流を行ないます。

ロシアのウクライナ侵攻は非暴力な手段による問題解決への希望を妨げ、加速化する気候危機は私たちの日常にも影を落としています。戦争や気候危機、分断や格差など、現代社会が向き合う課題を地球規模や地域の視点など様々な角度から学び考える場を持ちます。　特にパンデミックの中で見落とされがちであった課題や、支援から取り残されている人たちに光をあてつつ、現代社会の分断や不寛容を、仏教系 NGO として宗教の視点からも問い直してみたいと思います。

４．より多くの「光が当たらないところ」に光を当てるために、寄付先や連携先としての信頼度を高め、アーユスの活動資金の安定化を図る。

2022 年度に作り始めたファンドレイジング戦略を完成させて実行しつつ、支援者の拡大とフォローに努めます。特にアーユスと親和性の高い仏教者や組織が参加しやすい方法の提示と働きかけに注力します。

2023 年度は、創立 30 周年に当たるために 1 年間を通して 30 周年支援者拡大キャンペーンを展開します。30 年の経験をまとめて紹介し、アーユスへの信頼度を高め支援者を広げます。

５．次世代の仏教者や市民がアーユスの担い手となる仕組みをつくる。

活動の幅が広がり、組織運営が安定することをねらって、役員と事務局の共同体制を強化します。またインターンシップ制度が年度内に始まるよう、準備を進めます。

役員・専門委員の交代がスムーズに行えるよう、制度の見直しを図ります。

1．国際協力等を行うNGO・市民団体への助成・研修・表彰等の支援、及び紛争・災害時の緊急救援（NGO支援事業）

国際協力に取り組むNGOの組織強化を支援するとともに、NGO・NPOと連携し、光が当たらないところに光を当てる活動に協力して、平和や人権のための活動を推進する。

1）NGO組織強化支援

国際協力NGOが自立した経済基盤を築き、組織として円滑に活動できる運営管理や事業遂行の知識、技術、ノウハウを身につけられるように、組織強化に資する活動を支援する。

2023年度は、JFCネットワークを支援する。

また「NGO組織強化支援」は2023年度を持って終了とし、2024年度から始まる「ソーシャルチェンジ支援」の募集を行う。

●ソーシャルチェンジ支援

「NGO組織強化支援」で支援対象としていたアドボカシー活動を含める形で、NGOの視点から社会変革（ソーシャルチェンジ）を目指す活動を支援する制度とする。

対象となるのは、

・「国際協力NGO」（過去に「組織強化支援／人材支援」を実施したNGOも条件付きで対象となる）

・年間収入が5000万円未満の中小規模NGOとする（詳細は募集要項で規定）

・年間100万円を上限に2年間支援を行うこととする

上記の、「国際協力NGO」の定義には、海外での協力活動の他に、日本国内の外国人支援や難民支援、社会変革を起こすための意識啓発や社会教育などの活動を行うNGOも含まれる。短期間のキャンペーンではなく、あくまでも社会変革を起こすための中長期的な取り組みが支援対象であり、「組織」を母体として動いている活動であることが条件となる。

2）『街の灯』支援

2020年度に始まったプロジェクト支援制度。誰一人取り残さない社会をめざす「持続可能な開発目標（SDGs）」の概念を尊重し、日本の国内外で「光があたらない」活動に取り組むNGO／NPOに原則3年間協力する。2024年度からの支援団体の募集を行う。支援額の上限は50万円。より充実した支援事業となるよう、プログラムの強化を図る。

〇新規支援（2023年度～）

・「非正規滞在家族の正規化に向けた取り組み及び生活支援事業」ASIAN PEOPLE’S FRIENDSHIP SOCIETY

・「グアテマラ農村部での子どものための土曜学級」日本ラテンアメリカ協力ネットワーク

〇継続支援

・「日韓みらい若者支援事業」アジア・コミュニティ・センター21

・「ふくしま移住女性エンパワメント・プロジェクト」福島移住女性支援ネットワーク

・「水俣市内外での水俣病患者を対象にした『相談サロン』の実施」水俣病センター相思社

・「カーボデルガド州テロ被災者支援および平和教育活動」モザンビークのいのちをつなぐ会

3）時局対応支援

自然災害や紛争時に、被災地での救援・復興活動が迅速にかつ円滑に行われるような支援を行う。また、国際協力活動を進めるために必要と思われる提言・キャンペーン活動などが実施される場合にも協力する。

2022年度に開始したウクライナ緊急救援とトルコ・シリア大地震緊急救援にも、引き続き協力する。

2021年度から協力しているミャンマーでおきたクーデター関連の活動にも、継続して参加する。

国内で自然災害がおきた場合にアーユスへの要請や支援申請があった場合は、「国内災害支援規程」に基づいた対応を行う。

また、緊急救援に動く団体の情報収集を行い、災害や紛争などが起きた時に迅速に対応できる体制を整える。

●福島・脱原発支援

東日本大震災から10年以上が経ち、被災地への関心度が低くなる中、東北（特に福島）で起きたことを自分たちの問題として受け止め、原発に依存しない持続可能な社会の実現に向けた取り組みを支援する。その他、原発事故による悲劇を繰り返さないために、地域の力を活かすための諸活動を応援し、学びを発信する。

4）アーユス賞

日本の国際協力NGO活動で多大な功績のあったNGO関係者に対してNGO大賞（茂田賞）、今後の国際協力NGO界を支えていくことが期待される有望な人材に対してNGO新人賞（奨励賞）、さらに、仏教の縁に基づいた国際協力や地域づくりを志し、アー

ユスの活動に対する多大な貢献や協力があった寺院もしくは個人に対して特別功労賞をそれぞれ授与する。

授賞式は、対面とオンライン配信を組み合わせて開催する。

2．国際協力及び社会貢献などに関する広報、普及啓発、教育研修及び相互交流（研修・ネットワーク事業）

仏教者・NGO 関係者、市民が出会い、学び合い、協力しながら、より良い世界のあり方を実践的に探る。

1）研修・研究・啓発

中期方針に定めた「社会課題解決のためにより良い知恵、資源を巡らせる」「光があたっていない人に光をあてる」「関係者をつなぎ思考が揺さぶられるような多様な視点を持つ」ことにつながるセミナーや研修会を企画・実施し、アーユス独自の学び・交流の場として定着することを目指す。同時に仏教系 NGO としての視点も提示できるよう努める。また協力事業の「光の当たらないところ」に光を当てる広報活動を行う。

（1）セミナー／啓発

【テーマ案】

・非暴力と民主主義：日本でも国際協力の軍事化が進むなかでの国際協力の在り方とは。非暴力の考え方と仏教者の役割についても考える。

・変わりゆく地域社会：地域社会の構成員が徐々に変化し価値観も多様化するなかで、どう変化を認めあい生まれる葛藤を解決するのか。地域における寺院の役割についても考える。

・持続不可能な時代：気候危機や食糧危機、エネルギー課題、マイノリティへの眼差しなど、グローバルな課題に、当事者性をもって関わる方法を考える。

・海外の現場から：アーユスが関心を持って支援してきた事業の現在地、展望を学び知らせる。

【枠組み】

・お寺と 100 年後の未来：持続可能な社会の実現を「100 年後」をキーワードに、「お寺でできる SDGs」の事例を紹介しシステムチェンジの提案をする。

・『街の灯』トーク　光のあたらないところに光を：協力先 NGO をゲストに話を伺い、アーユスが「光を当てたい」と考える課題を広く知らせて賛同を募る。

・世界の現場から：時局対応支援で協力した事業の現状を伺い、継続的に関心を持ってもらう機会をつくる。戦争×ウクライナ、脱原発×福島など。

・国際協力を深める：専門委員などを講師に時事問題や専門分野に関するセミナーをおこない、NGO が取り組む課題の背景や構造的な問題への理解を深め、参加者の意見交換の場にもする。

・フィールドスタディ：交流とも連動させて、可能な範囲で実施。

・「KOREA こどもキャンペーン」への参加：「市民による北東アジアの平和構築」を目指した、子どもの絵画交流、大学生のフォーラムの企画実施に参画する。韓国との連携や出張の可能性も想定。

（2）研修会

・NGO 勉強会など、NGO 向けの研修の実施

・災害時のお寺の役割など、寺院・仏教者向けのセミナーの実施

2）ネットワーク推進

アーユスとハブとしたネットワークがより良く活用されるように、協力先 NGO や関係寺院、仏教者からアーユスへのニーズを能動的に集め、定期的な情報発信や事例紹介につなげる。

（1）NGO・寺院・市民ネットワーク

・協力先 NGO・関係寺院の情報収集と共有システムづくり

・相談対応

・他団体との連携

【団体会員】

国際協力 NGO センター、関西 NGO 協議会、名古屋 NGO センター、開発教育協会、仏教 NGO ネットワーク、日本 NPO センター、SDGs 市民社会ネットワーク、移住者と連帯する全国ネットワーク、の計 8 団体について、団体会員として協力し連携を図る。

【ネットワーク参加】

G7 市民社会コアリション、仏教 NGO ネットワーク、FBO 情報交換会、カンボジア市民フォーラム、KOREA こどもキャンペーン

（2）交流／多様な人が語り合う場

・多様なセクターの人たちが発言できる場づくり（Web、紙面、音声ほか）の模索

・アーユスの活動に関心を持つ特に若手の仏教者の発掘

・専門委員や会員の会報誌やウェブへの寄稿、セミナー等の講師依頼

・交流会 / 定例会：東海、関西を含め、会員・支援

者・NGO と交流を深める企画の実施、状況に応じてフィールドスタディの実施
・NGO ランチトーク（月 2 回・オンライン）の継続
・専門委員の集い：アーユスと専門委員、および専門委員同士の交流を深め、NGO を取り巻く国内外の情勢や日本社会が変化する中で市民社会がすべきこと、NGO が果たすべき役割等についての問題提起・情報共有・意見交換を行う。
・オープンハウス：事務所が地域の人にも認識されるようになることを目指す。
※前年まで別立てとしていた（3）交流は、（2）多様な人が語り合う場に繋がるものとして統合する。

(3) 寺院／地域との協働

・お寺という場の活用：会場を提供したいという会員・支援者との協働を探る
・総会など関係者のあつまる場や寺市への積極的な参加
・自然災害の際の連携
・その他、相談や問い合わせに積極的に対応する。

3）開発教育

・ニュースレターの発行を年に 2 回とし、それ以外には活動報告書を作成して送る。
・施本を年 4 回発行し、頒布数が伸びるよう広報にも力をいれる。

4）普及事業

物品販売や執筆講演により、アーユスの活動を広く広める。

3. 組織運営・広報

1）組織運営

通常業務の他、以下の活動に取り組む
・インターンシップの受け入れと制度の確立
・中期計画のモニタリング
・理事／専門委員制度の見直し
・理事会と事務局の共同体制の推進

2）広報／ファンドレイジング／支援者対応

2022 年度は時局対応支援の寄付と大口の切手寄付により寄付金収入が増えたが、2023 年度はそれらが見込めないために赤字決算になる可能性が強い。その赤字を少しでも少なくし、3 年後に財政基盤が安定するよう、寄付を増やすことに注力する。

また 3 月に創立 30 年を迎えたことを機に、これまでの業績を伝えつつ、支援者の輪を広げることに努める。

・ファンドレイジング戦略と年間計画の策定
・30 周年記念キャンペーンの実施
・寄付者／セミナーの参加者のフォローアップ
・クラウドファンディングへの挑戦
・新規アタックリストに基づいた働きかけ
・SNS を中心とする広報強化など

2022 年度監査報告

2022 年度　監査報告書

特定非営利活動法人アーユス仏教国際協力ネットワークの2022 年度決算について、監査の結果、事業は適正に実施され、また活動計算書および貸借対照表は、一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認めます。

2022 年 6 月 2 日

監事　池田未樹

監事　関口宏聡

2023 年度アーユス役員

（2022 年 7 月 1 日～ 2024 年 6 月 30 日）

＜理事＞

大橋正明（聖心女子大学・国際協力 NGO センター）
神田浩史（泉京・垂井）
熊岡路矢（日本映画大学教授）
菅原智之（浄土真宗本願寺派高林寺）
瀬野美佐（女性と仏教・関東ネットワーク）
遠山章信（浄土真宗本願寺派正福寺）
中平了悟（浄土真宗本願寺派西正寺）
中村絵乃（開発教育協会）
福田行慈（浄土宗本誓寺）
本多静芳（浄土真宗本願寺派万行寺）
松本智量（浄土真宗本願寺派延立寺）
水谷浩志（浄土宗法雲寺）
持田貫信（日蓮宗本久寺）

＜監事＞

池田未樹（池田未樹税理士事務所）
関口宏聡（セイエン）

顧　問

岸野亮淳（浄土宗西山禅林寺派恵光寺）
十河　章（真言宗善通寺派志度寺）

事務局体制

事務局長　枝木美香
NGO 支援事業課長　井上団
研修・ネットワーク事業主任　寺西澄子

2023 年度アーユス専門委員

（敬称略：五十音順）

淺川和也（明治学院大学）平和教育、対立・紛争解決・英語教育
雨森孝悦（日本福祉大学）非営利組織論、マイクロファイナンス
池住義憲（半田常滑看護専門学校）平和学、国際協力、地域開発、地域保健
池田未樹（池田未樹税理士事務所）　国際租税
石井宏明（パスウェイズジャパン）難民支援、NGO ／ NPO
稲場雅紀（アフリカ日本協議会）世界の社会運動、アフリカ、国際保健政策、HIV/AIDS、感染症対策
今野泰三（中京大学）中東政治学、政治地理学、平和学、パレスチナ／イスラエル研究
上村英明（市民外交センター）人権問題
大橋正明（聖心女子大学）NGO/NPO 論、南アジア地域研究
甲斐田万智子（国際子ども権利センター）子どもの権利、児童労働、人身売買、性的搾取、開発教育、ジェンダー、多文化共生
郭辰雄（コリア NGO センター）外国人の人権保障、多民族共生
柏崎正雄（アカー）性的指向・性自認、LGBT、HIV/ エイズ
川橋範子（国際日本文化研究センター）宗教とジェンダー、フェミニスト人類学
神田浩史（泉京･垂井）まちづくり、アドボカシー、水、フェアトレード、国際協力、環境、食・農など
木口由香（メコン・ウォッチ）大規模開発による環境社会影響の防止・軽減、メコン河流域の人々の環境・社会問題の映像での記録など
金敬黙（早稲田大学文学学術院）平和研究､東アジア市民社会、トランスナショナル、グローバルアジア研究
沢田貴志（港町診療所）保健衛生・HIV/AIDS、外国人の保健医療
釈徹宗　（相愛大学）比較宗教思想、宗教文化
神仁　（全国青少年教化協議会）仏教教育、臨床仏教
関口宏聡（セイエン）NPO 法人制度
田中優　（未来バンク）環境、平和、社会的金融
田中好子（パレスチナ子どものキャンペーン）パレスチナ問題、中東和平、難民など
寺中誠　（東京経済大学）刑事政策論、人権論・国際人権法　国際刑事法
土井佳彦（多文化共生リソースセンター東海）多文化共生、地域日本語学習支援、災害時外国人対応
中村絵乃（開発教育協会）開発教育
林達雄　（アフリカ日本協議会）保健、災害（干ばつ）、気候変動
深草亜悠美（国際環境 NGO FoE Japan）気候変動、エネルギー
古沢広祐（國學院大學研究開発推進機構）環境社会経済学、持続可能社会論、有機農業・食糧農業問題
星野哲（立教大学社会デザイン研究所）ライフエンディング（看取り、葬送、医療・介護、寺院など）
本田徹　（シェア＝国際保健協力市民の会）国際保健協力、公衆衛生、内科臨床
源由理子（明治大学）評価研究、社会開発論
目加田説子（中央大学）国際公共政策、NPO・NGO、非人道兵器
山本直輝（イブン・ハルドゥーン大学文明対話研究所）イスラーム思想・社会運動